

令和4年度

学生によるオレンジリボン運動

同朋大学 実施報告書



実施主体 社会福祉学部 井上ゼミ

実施内容 ①オレンジリボン認知度調査、②フウセンカズラの栽培・配布、
③大学図書館における子ども虐待防止のための選書・展示、④
大学祭におけるオレンジリボンの配布

①事前に取り組んだ内容

事前学習として、2021年度の「学生による子ども虐待防止オレンジリボン運動」について、報告動画の視聴をゼミの授業において行った。

虐待死に関する文献をゼミの授業で輪読し、子どもの虐待問題について理解を深めた。その中で、子どもの虐待防止のためには、子どもの虐待予防が重要であり、子ども虐待防止について学生が取り組めることとして、オレンジリボン運動があることを学んだ。

12名の学生の中で、3グループに分かれ、3つのプロジェクトを開始することとした。

アンケート調査のプロジェクトでは、アンケート用紙を作成し、ゼミ担当教員ではない他の教員に依頼し、授業時間の一部を使わせてもらいアンケートの配布・回収を行った。アンケートの分析結果は、文書化して、報告書としてまとめることにした。

フウセンカズラのプロジェクトでは、フウセンカズラの種を購入し、ゼミ学生・担当教員が自宅で栽培し、成長の様子を記録した。そのうえで、「フウセンカズラの種子」「オレンジリボン（ゼミ内で作成）」「フウセンカズラのプロジェクトのねらいと栽培の仕方を記したパンフレット」「オレンジリボン運動のチラシ」の4点をセットにして、学生と教職員に配ってることとした。

図書選書・展示のプロジェクトでは、ゼミ生が一人につき1冊の子ども虐待の理解を深めるための図書（絵本・漫画を含む）を取り上げることとし、図書館にない本についてはリクエスト、本の読み込み、「要約・学び・推薦文」の作成を行った。学生が図書館の職員（司書）に依頼し、11月の子ども虐待防止推進月間に選書図書コーナーを設置していただけることになった。展示作業は、学生が行った（展示期間は、10月27日～11月31日）。学生が、選書のポスターを作成し、学内にポスター（紙）を掲示するとともに、学内デジタルサイネージ（電子掲示板）への掲載、大学図書館のホームページに掲載した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

アンケート調査プロジェクトとしては、調査内容をどうするか、誰を対象にするか、どの教員に協力依頼をするか、結果をどうまとめて可視化し、考察につなげるか、など多くの学ぶ要素があった。

フウセンカズラのプロジェクトでは、企画の決定が5月になり、種子をまくのが6月になってしまい、時期が遅めになってしまったが、なんとか栽培をすることができた。学生だけでなく、大学学長や教員にも配布したところ、「来年育てます」という反応もあり、この運動は2023年度以降も学内で広がりを見せて継続する可能性がある。

図書選書・展示のプロジェクトでは、ゼミ生にとって、人に紹介するために本を読み、推薦文を作るためにしっかりと本を読み込み、自分のものにするという学びがあった。図書館にとっては、学生発信の図書館企画であり、学生の本離れが憂慮される中で、学生の図書館利用の促進につながる可能性のある活動になった。

まとめとして、学内学会（通称 S 学会）のグループ研究助成を得て活動し、『S 学会ジャーナル（同朋大学社会福祉研究）』（Vol.24、15-19、2023 年 3 月発行）に活動成果を報告した。

③オレンジリボン運動を終えて…

初年度であるため、ゼミ生自身が「わがこと」として子ども虐待問題を意識すること、その上で身近な人たちに啓発していくことに主眼を置いて取り組んだ。

自学部学生、自学部教員、学長、図書館職員などに対して、啓発及び協力依頼を行っていった。

大学の図書館ホームページで選書・展示プロジェクトについて掲載していただくことができたのは、社会への発信になった。

大学祭でのオレンジリボン配布も地域の人たち関心を持ってもらうことにつながる手ごたえがあった。



学長訪問 活動報告



大学図書館での図書選書・展示

【同朋大学】 <http://www.tomoc.ac.jp>